＜市町村探訪２＞

思い出いっぱい　わたしたちのみち
～思い出の風景アルバムをつくろう～景観まちづくり学習を通して

行方市立羽生小学校
額　賀　敏　明

＜はじめに＞

本校は，行方市の最西端に位置しており，学区の南部は霞ヶ浦に面し，国道355号沿いにある。歴史的にも古く，社会科で全国的に有名な三昧塚古墳や勅使塚古墳をはじめとする古墳群や萬福寺，「常陸国風土記」の地名伝承，あるいは「万葉集」の防人の歌碑などの歴史的文化的景観がたくさん見られる。また，茨城百景にも選ばれている地域でもある。

そこで，総合的な学習の時間の授業の一環として，歴史的景観，地理的景観，社会的景観など恵まれた地域素材を活用することで，学習環境の積極的な活用に繋がり，児童の興味・関心の広がりが生まれ，他教科との関連付けもできることから国土交通省が行っている景観まちづくり学習に応募することになった。

＜学習内容＞

児童が６年間通った通学路について，思い出に残ることを話し合い，思い出の風景を写真で撮り，ポスター形式にまとめ自分の思いを伝え合った。

まちづくりアドバイザーの秋山昌範氏をゲストティーチャーとしてお迎えし，子ども達の発表をもとにアドバイスをいただき，景観の大切さを学んだ。また，友達の発表を聞きながら，各自の思い出を伝え合うなどの意欲的な交流が行われた。

歴史的景観については，学区の通学路に観る景観について，自分達が撮影した写真や自宅の場所を昔の地名が載っている地図を使って確認した。

地理的な景観では，学区周辺の行方台地のでき方について，ゲストティーチャーの説明を聞きながら学習した。

また，ポルトガルや中国の景観について学習し，自分達が住んでいる地区の景観との相違について理解することができた。

１学期から学習してきたことをもとに，コンピュータで卒業記念アルバムに作成し，自分自身を振り返る機会をとした。

＜終わりに＞

今までの総合的な学習の時間では，福祉にしても国際理解にしても，知識・理解の部分が多く，発表もあまり深まりが見られなかった。体験も取り入れたが，感想をまとめるにとどまった。

今回の景観まちづくり学習を終えて感じたことは，とても身近な題材であり，どの児童も自分達の「みち」について６年間の思いが強いので，意欲的に取り組めたことである。また児童にとって分かりやすく，発表の場で深め合うこともできた。

さらに，たくさんのゲストティーチャーとの関わりを通して，環境問題や自分達の住んでいる「まち」について関心をもち，郷土を愛する気持ちを育むこともできたと感じた。卒業アルバムの中に残すことにより，自分達が大人になった時，自分の通った「みち」を思い出すことであろう。子ども達の感想の中に，「学習を通して，自分達の住んでいる地域の風景を大切にしたい。」と書いてあったことが印象的であった。とても有意義な学習であったとともに，子ども達のために協力して下さった方々に感謝申し上げます。

～まちづくりアドバイザー秋山昌範先生のめあて～

６学年の講義

通学路という子供たちが毎日接する風景の中から，自分の思い出の風景を切り取るというなかなかやりがいのある作業で，私が担当したのは，一人ひとりが取材した思い出に残る風景を，クラス全体にプレゼンテーションする部分の講評です。発表内容の感想と併せて今後のまとめ作業の中で持つべき視点や，人間も含めた景観を校正するキャラクターのとらえ方を解説しました。

さすがに６年生ともなると，情緒的な景観の見方ができており，発表を聞いていてしっかりと伝わってくるものを感じました。特に，先に廃線となった鹿島鉄道に関わる風景に思い出を織り込んだ生徒もいて，景観を考えるとき，今ある風景だけでなく，現在に至るまでの経緯も含めて地域を捉えることの大切さを，私自身も再確認することが出来ました。